

2004年2月18日発行

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」No. 12

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班

---

前回、「あけましておめでとうございます」とごあいさつしたのがかなり昔に思われるくらい、ここ数日間はぽかぽか陽気が続いており、昼間に外を散歩するとほんのりと汗ばむくらいです。もう、春と呼んでいいのかもしれませんがね。

花粉症の方々はこれからつらい時期かもしれませんが、今年は花粉が少な目だそうですよ。

#### トピックス

地域福祉計画策定の市町村 年度内に半数に達する見込み

#### 市町村情報

小国町 地域通貨杉っ子運営会

地域通貨「杉っ子」のご紹介

清和村 在宅介護支援施設 花高原

廃校を活用した高齢者の住まい

#### お知らせ

やさしいまちづくりフォーラム

～あなたには、「おもてなしの心」が「宿」っていますか？～

#### トピックス

地域福祉計画策定の市町村 年度内に半数に達する見込み

少子高齢化や核家族化が進む中、増大・多様化する福祉ニーズに十分にこたえていくためには、地域のみんなで考えながら地域に応じた支え合いの福祉サービスを創っていかうという「地域福祉」を進めていく必要があります。

また、社会福祉法の地域福祉関係規定が平成15年4月から施行されたこともあって、県内各市町村で地域福祉計画の策定が進んでいます。

これまでに策定を済ませたのは36市町村(40%)で、15年度内に策定完了を予定している9市町村を含めると、90市町村の半数に達する見込みです。

県では、本年度から地域住民の参加による福祉のまちづくり事業に取り組む市町村に対して専門のアドバイザーを派遣しており、計画策定に取り組んでいる4市町に、これまで延べ10回アドバイザーを派遣し、地域福祉フォーラムでの講演、庁内作業部会やワークショップでの指導、助言などの支援を行ってきました。

一方、計画策定が未定とされている全国の1,602市町村に対して、厚生労働省が先月調査した結果では、未定の要因として「市町村合併の予定がある」と回答したのが1,224(76.4%)市町村でした。

市町村合併が本年は大詰め段階を迎えており、計画策定のために組織体制を整えるのも厳しくなっている状況ですが、合併後の地域特性を活かした地域福祉を推進するためのビジョンを示すうえからも、合併協議と連携した地域福祉計画の策定が求められています。

#### 【市町村地域福祉計画策定状況 (合計：90市町村)】

平成16年2月16日現在

ア 平成14年に策定済み	(33市町村	36.7%)
イ 平成15年度に策定済み	(3市町村	3.3%)
ウ 現在作業中、平成15年度内に策定完了予定	(9市町村	10.0%)
エ 現在作業中、平成16年度に策定見込み	(5市町	5.6%)
オ 16年度に策定予定	(16市町	17.8%)
カ その他	(24市町村	26.6%)

#### 市町村情報

小国町 地域通貨杉っ子運営会

地域通貨「杉っ子」のご紹介

小国町の地域通貨「杉っ子」のご紹介です。

小国町では、昨年8月から、地域通貨杉っ子運営会により、小国地域で使用することのできる地域通貨「杉っ子」を発行しています。

運営会は、小国町社会福祉協議会、小国町商工会、木もれ陽の会(ボランティアグループ)、小国学園

等の16団体で組織されており、現在NPO法人の認証申請中です。

「杉っ子」の通貨単位は「ゆう」で、1ゆうは50円に相当します。活動に参加するには、自分のできるボランティア活動を運営会に申告して、サポート会員登録する必要があります。現在のサポート会員数は約250名。サポート会員は年会費1,000円を支払うことにより10ゆう(500円相当)を受け取ります。運営会が発行している「杉っ子つうしん」には、サポート会員名簿と、各会員のできること(ボランティア商品と言っています)の一覧が掲載されており、話し相手や草取りからパソコン等の余暇支援まで、幅広いボランティア活動が登録されています。「杉っ子」の裏面には、「住民取引台帳」として、これまでのボランティア商品の取引経緯を記載するようになっています。

また、杉っ子には、有効期限があります。期限は発行日より1年間。有効期限を設けたのは、地域通貨として流通することが重要との考えからです。しかし、運営会に杉っ子を預託すれば、有効期限を気にせず、必要なときにおろして使用することもできます。この場合、20%の管理費がかかりますが、流通が始まってから1年経過していないため、預託制度の利用はまだないとのこと。

実は、小国町には、「杉っ子」の前身となる「杉っ子シール」があります。小国町シール事業組合加盟店で100円の買い物すると「杉っ子シール」が1枚もらえ、シールを150枚集めると250円の現金と交換されるため、町民の小さな楽しみとして親しまれています。10年以上前から使用されており、地域にも定着してきているシールですが、現金と交換が可能であるため、これをそのまま地域通貨として使用するのには難しいそうです。そこで、「杉っ子シール」30枚を1ゆうと交換することを認め、「杉っ子」での買い物ができるようにしました。このことが地元商店街の利用につながり、「杉っ子」が地域福祉に役立つだけでなく、地域経済の活性化の一端を担うことが期待されています。

清和村 在宅介護支援施設 花高原

廃校を活用した高齢者の住まい

清和村社協 坂本事務局長、高木施設長よりお話を伺いました。

・清和村は、周囲を山林に囲まれ、子供の数が減少し続ける同村の65歳以上の高齢化率は35.2%で県内でもトップクラスです。山間部に暮らす高齢者は買い物や通院など何かと不便も多く、広い地区に家が点在しており、高齢者に目が届きにくくなるという問題もありました。こうした事情から、高齢者が安心して便利に暮らせる住まいづくりは、村の課題でした。そこで、児童数の減少のため廃校となった同村鶴ヶ田地区の元朝日西部小学校校舎が着目されました。鉄筋コンクリート造り2階建て、もともと天井や壁、床などの内装は木材で、1億4百万円をかけて、高齢者の居住スペース、生きがい活動支援通所事業のためのフロア等を整備しています。検討当初、同村から村外の施設に入所される場合の費用と、元気に花高原で暮らされた場合との費用を比較し、建設費に関しても、既存の施設(廃校)を活用することでコストダウンに努めたとの坂本事務局長の話でした。地元に住み続けたいという高齢者の願いを地域の資源(廃校)を活用して実現させた事例です。

・現在16名が入居し、「一人暮らしをしていた時に比べて、ここはいつも誰かが近くにいて安心」と

好評です。生きがい活動支援通所事業は週に3回、また、学校の総合学習の時間や学童保育でも同施設を活用。子どもたちが、同施設を利用する高齢者や清掃活動に来ている障害者、ボランティアの方々等とも交流し、さまざまな村民が交流する、まさに「地域の縁側」となっています。また、同施設の高木施設長は、同村で30年間以上、村民の健康を見守ってくれている元保健師さん。村民の一人ひとりを良く知る「安心の源」として一役買っているらしいです。

・清和村社協は、同施設の運営委託の他、訪問介護、訪問入浴、デイサービス等の介護保険事業はもとより、各地区社協で活躍する地区福祉委員を中心として、ふれあいいきいきサロンや小地域ネットワークを全地域で展開するなど、地域福祉活動の全般で活躍しています。

お知らせ

やさしいまちづくりフォーラム

～あなたには、「おもてなしの心」が「宿」っていますか？～

2月24日(火)から29日(日)にかけては、くまもとハートウィークです。誰もが安心していきいきと暮らせる「やさしいまちづくり」について考え、取組みのきっかけとしていただく6日間です。

2月25日には、前回のメールマガジンでもお伝えしましたとおり、やさしいまちづくりフォーラムが開催されます。今回は、「バリアフリーの『宿』って、どぎゃん『宿』？」と題して、高齢者、障害者、宿泊施設、それぞれの立場からの代表者と、「宿泊」の専門家、進行役のタレント・大田黒浩一氏を招いてのパネルディスカッションが開かれます。県内外からの高齢者や障害者の観光客・宿泊者等に対する「おもてなしの心」を意図した「宿」をテーマとして、やさしいまちづくりについての必要性やその手法を紹介し、これからの取組みの方向性を探ります。

やさしいまちづくりフォーラムの日程等

日時 / 平成16年2月25日(水) 13:30～16:00

会場 / 熊本市国際交流会館 6階ホール

内容 / 第7回(平成15年度)くまもと・やさしいまちづくり表彰式  
「心の輪を広げる体験作文・障害者の日のポスター」県表彰式  
パネルディスカッション

<テーマ>

バリアフリーの『宿』って、どぎゃん『宿』？

<パネリスト>

- ・井門隆夫 氏 (ツーリズム・マーケティング研究所主任研究員)
- ・吉本信子 さん (県老人クラブ連合会副会長・女性委員長)
- ・永野寿代 さん (熊本市身体障害者平成福祉協会理事・熊本県観光審議会委員)

・佐藤忠史氏（旅館「細川」フロント兼営業）

<進行>

・大田黒浩一氏（タレント）

入場料 / 無料

参加者 / 県民、観光関係事業者等

申し込み方法 / 熊本県福祉のまちづくり課 やさしいまちづくり班まで。

はがき、FAX、メール等で受け付けております。

その他 / 当日は、手話通訳・要約筆記を準備。託児所も設置。

また、次のとおりロビーでの展示も行います。

- ・各表彰の受賞事例等の紹介パネル展示
- ・UD製品の展示
- ・「熊本さわやか知恵袋」作品の展示

この他、くまもとハートウィークの期間中、県立美術館分館で、NHK ハート展と、県内の障害者芸術展も開かれます。

NHK ハート展は、障害のある方が日常生活の中で感じたことを詩につづり、様々な分野で活躍している著名人やアーティストの皆さんが、その詩からイメージされるものを「ハート」をモチーフに表現したものです。

県内の障害者芸術展では、県内の障害者の方々が製作された陶芸や手工芸、あるいは絵画などの作品を約150作品、展示しています。

どちらも開催期間はハートウィークと同じ2月24日（火）から29日（日）です。時間は、24～27日は9：30～18：30（入場は18：00まで）、28日、29日は9：30～17：00（入場は16：30まで）となっています。ぜひお越しください。

なお、前回のメールマガジンでお伝えしました「小規模多機能ホーム全国セミナーin くまもと山鹿」につきましては、定員に達したとのこと。参加申し込みをしていただきました皆様に、御礼申し上げます。

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」 No. 12

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班

---

記載内容に関するお問い合わせ、情報提供、ご意見、配信の  
解除、メールアドレスの変更など一切の連絡は、熊本県健康福祉部  
福祉のまちづくり課地域福祉企画班へお願いします。

E-mail: [fukushimati@pref.kumamoto.lg.jp](mailto:fukushimati@pref.kumamoto.lg.jp)

TEL:096-383-1185

FAX:096-387-5992